

# 県北医療圏の中核、目指す姿は

災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院で県北医療圏の中核を担う那須赤十字病院(大田原市中田原)。

開院当初から3月まで院長を務めた北島敏光前院長の路線をどう継承するか。「北島前院長は院長

り、できる限りの診療行為を行い、地域に貢献できる病院を目指す。それには医師の数(を増やすこと)。特

に3次救急を担う当院において救急部門(の強化)は絶対やらない。救急隊

あいさつで『お断り件数ゼロを目指したい』と表明した」

と思う。少子化による人口減少の影響や診療報酬改定もあるが、予防接種など予防医学の発展に伴って罹患者が減少した影響もあると思う。安定した病院経営を維持するため、救

らに対応する療養型の施設、介護を担う人たちもつと連携し、退院支援をもつと強化していかなければならないと思う。地域の人に質の高い医療・看護を提供するために職員

## 救急要請、お断りゼロへ

2015年度は開院以来初めて黒字化した。国の苦しい財政状況、少子化などもあって病院経営は今後、厳しさを増すことが予想される。12年に開院した同病院2代目の院長として4月に就任した白石悟氏(62)に目指す病院像などについて聞いた。

(聞き手 権沢修)

となつても臨床を継続していた。『院長でも臨床はできる』と強く感じた。私も外来はこれまで通り週3日間、現場に立ちたい。病院の対応の良さも悪さも患者さんから聞ける。生きた声が一番大事だ。直接医師の声を聞くことができる地元医師会などの集まりにも継続して参加していきたい」

「北島前院長は院長

あいさつで『お断り件数ゼロを目指したい』と表明した」

と思う。少子化による人口減少の影響や診療報酬改定もあるが、予防接種など予防医学の発展に伴って罹患者が減少した影響もあると思う。安定した病院経営を維持するため、救

らに対応する療養型の施設、介護を担う人たちもつと連携し、退院支援をもつと強化していかなければならないと思う。地域の人に質の高い医療・看護を提供するために職員

らに対応する療養型の施設、介護を担う人たちもつと連携し、退院支援をもつと強化していかなければならないと思う。地域の人に質の高い医療・看護を提供するために職員

### 那須赤十字病院長

白石悟氏



## 現場に立って生の声を聞く

「より働きやすい、働きがいのある職場環境をつくるため、いろいろな意味で透明性を持たせたい。職員一人一人に光を当て、職員が納得できる組織づくりを行い全体のレベルアップにつなげたい」

急部門の充実、地元の医療関係者との連携を密にしていきたい」

「患者に寄り添う。医者もキョア(治療)のみならずケア(介護)の視点」を重視するところが大切。これからも地域の人たちに寄り添っていきたい」

「団塊世代が75歳以上になる」2025年問題を含めて高齢者



「救急医療や災害医療は赤十字の使命であ

【略歴】川崎市出身。慶応大医学部卒。1985年、大田原赤十字病院婦人科部長就任。那須赤十字病院副院長などを歴任。日本産科婦人科学会専門医、日本婦人科腫瘍学会専門医。那須塩原市在住。